

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400969		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん米沢		
所在地	山形県米沢市通町5丁目3番46号		
自己評価作成日	平成 22年 3月 21日	開設年月日	平成 16年 2月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 22年 4月 8日	評価結果決定日	平成 22年 4月 23日

(ユニット名 1階)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

既存のアパートを改装したホームでは「家族の絆」「自由を尊重する」という理念の現実に向けて、一日一日を大切にできる支援を目指しています。利用者に日課を強いる事なく「その人」に合わせた過ごし方の工夫をしてみることで、利用者何を望んでいるのかを考えながら、一人ひとりが持っている力を引き出す関わり方をしてみることなどに、家族の協力を得ながら職員一同で取り組んでいこうとしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が笑顔でその人らしく生き活きと生活ができ、家族との繋がりを大切にしながら、地域の中で安心して暮らし続けることができる家として支援されています。事業所内は木の温かみがあふれ、空気の入替えや一定の温度管理に配慮された環境への気遣いと要所に設けられたソファやベンチによって、一人になりたい時や仲のいい友達、家族等との憩いの場としての活用に工夫も見られます。手作りの貼り絵や四季折々の花、利用者の笑顔あふれる写真が飾られ、潤いと落ち着いた雰囲気を感じ出しています。職員は、利用者の力を引き出し、職員、利用者共に明るく伸び伸びと共働しており、楽しさと安心の伝わる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月のミーティング時管理者より運営理念の説明、及び理念に因んだ情報等(新聞記事や会議、研修により得られた情報)の紹介、説明を行っている。		事業所独自の理念である「一日一笑」を室内に掲示し、職員間で共有すると共に、日常的な会話から利用者の笑顔を絶やさない事を大切にされたケアの実践に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に参加しており、地域公民館主催の救急講習にも参加しており、町内盆踊り大会等の町内会の行事にも参加している。また、ホーム行事への近隣からの参加、利用者を行うゴミ出しや散歩の場面でも、挨拶や会話による交流が増えてきている。		町内や公民館主催の催し物には、利用者と一緒に参加している。事業所主催のビアガーデンには、家族や町内会長を通じて地域の人に案内し、又、日常的なゴミ出しや散歩等で地域住民との挨拶や会話を交わす等、心の触れ合う交流が年々増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・積極性に欠けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会を通じて、当事業所の現状の事実を伝達すると共に、アドバイスや援助を受け、利用者の為の安心出来る施設運営を実施している。		運営推進会議は、2ヶ月に1回事業所内で開催しており、参加者の出席率も良く、利用者の状況等、現状を報告している。市の担当者からは、災害対策に関して避難時の時間計測等の訓練内容や地域の協力体制について、実践的なアドバイス等をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・利用者の医療行為の相談や家族部屋の活用について、管理者が市町村の担当者に相談に出向き、関係づくりに努めている。		事業所の運営や重度化してきている利用者(医療行為)に関する相談等で市に出向いて行ったり、生活保護受給者の状況について話し合う為2ヶ月に1回担当者からの来訪や、定期的に介護相談員の訪問があったりと、情報の共有が図られ、連携や協力関係が深まってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	・職員のレベルUPの為、身体拘束について時々勉強会を行い、統一したケアを行っている。		身体拘束に関する勉強会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っている。帰宅願望があった場合は、会話で気分をそらしたり、一人ひとりの外出傾向を把握し、職員間で見守りの方法を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所内にて問題委員会を設置し、法的問題や事故問題について、管理者、委員会を中心に、ミーティング時に学習の場を設ける等の活動を実施しています。又、情報資料を職員間で閲覧している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・社外研修等を通じ、何らかの理解を得た時点で、他職員へミーティングや朝礼時に伝達するよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の希望が有った際には、管理者より丁寧な説明が行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見には積極的に耳を傾け、速やかな対応を行っている。	面会時に家族等と個別に関わる機会を持ち、何気ない会話の中から意見や要望を伺い、職員で話し合い、運営に反映している。又、運営推進会議や電話で要望等を把握する取り組みも行なわれている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティング時、又は必要時、直接管理者に伝達し、意見の結果を頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者は、講演会等に積極的に参加し、職員の定着を図る為、職場環境、人間関係の改善に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修参加の報告により、他職員への内容を説明し、情報の共有を行い、活用に向けて努めている。	法人内での新人研修や管理者研修、事業所内でテーマ毎の勉強会等、職員育成と資格取得に力を入れ、職員の希望も取り入れながら、スキルアップに繋げている。外部研修は認知症に関する研修等に参加し、月1回ミーティングの中での研修内容の伝達や研修記録を回覧し、全職員が共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・ボランティア形式にて当施設への訪問を受けている。又、当施設職員が他施設へ訪問し、学習の場を設けた時もある。	米沢市内のグループホーム協議会に参加し、重度化している利用者への対応等情報交換を行なっている。法人内での職員交流会や、市内の事業所と交換実習、合同学習会等で意見交換を通して、質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・当施設では、初期段階において実態調査を実施しておりますが、主に管理者、計画作成者が責任をもって担当しており、常に御本人の気持ちを受け止める様努力し、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・実態調査の段階より常に御本人同様御家族の思いを受け止め信頼関係の構築に努力し、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・御家族や本人がグループホームを本当に希望されているかを確認し、利用者や御家族にとっての必要性の適切な判断をする等の対応する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・全職員が、利用者の喜怒哀楽を共に分かち合い、感情の共有に努め、安心できる支援を実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・御家族の面会時や、電話での報告を通して利用者の思い等を共に分かち合い、支えあえるようコミュニケーションの確立を図り努力し、努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ドライブ、買い物等の外出時には、利用者の馴染みの場所に行き、思い出等のお話お聞きしたりしています。又、馴染みの知人、友人との関係が途切れない様電話の取次ぎ等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士で気の合う仲間作りができている方もいらっしゃいますが、なかなか馴染めない方には、孤立しないように職員が間に入る等の援助を行い、よりよい関係づくりに努めています。また、利用者個人において、心遣いも理解して頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方が、たまに来所される事が有り、入所者様とのコミュニケーションを図られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・コミュニケーションを通じ、職員全員が常に利用者の思いを敏感に感じるよう努めている。ジェスチャーの活用、仕草による感情の表現を感じ取る様努めている。	日常会話の中で、一人ひとりの暮らしへの思いや意向を聞き取り、申し送りノートを活用して、職員間で共有している。意思疎通が困難な利用者には、文字盤を使用し指してもらったり、日々の行動や表情から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者本人や御家族様、地域ネットワークの方に利用者個人の習慣や生活環境、概要歴、サービス利用から現在の習慣に至るまでお聞きし、本人の望む馴染みの暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の昔ながらの生活習慣が、心身状態上可能な限り維持出来、生活環境や用具の工夫等現在の状態に適する様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居後2週間を経過した後、よくアセスメントを実施した上で、サービス計画書の作成を実施しています。作成にあたっては、利用者、御家族から直接希望や困っている事、不安をお聞きし、利用者の精神面、行動面を理解する上で実施している。	利用者や家族等の思いを反映し、職員の意見・情報・気づきを取り入れながら、家族参加型のケアカンファレンスが開催されている。3ヶ月に1回、又、状態の変化毎に見直しが行なわれ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の気づきや支援内容等における実践や過程、結果等については、全職員が記録として残し、ご本人の支援へと役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの活用を年数回お願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	・利用者や御家族の希望に合わせ、かかりつけ医の変更に至る場合も有る。又、送迎や付添等の援助を行い、日々の状態報告等を通して医師との連携を図り、適切な医療を受けられる様支援している。	利用者・家族等の希望するかかりつけ医を受診し、職員が主に通院介助を行なっている。受診結果は家族等にその都度連絡し、職員は申し送りノートや業務日誌等で共有し、協力医療機関との連携を図りながら支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	・定期的に病院受診し、心身状態の変化等にはかかりつけ医に連絡し、医師より指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院中も、職員が面会に行きその都度、看護師等にその時の状態報告等を図る様、心掛け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	・状態悪化した場合、かかりつけ医師との連携をとり利用者、御家族を含めて入院の検討を行っている。利用者、御家族の意思を尊重し、ターミナルケアにおいての援助を実施するよう努力し努めている。	重度化や終末期における指針を作成し、入居時に本人・家族等に説明し同意書を得ている。状況変化時に応じ、家族等・かかりつけ医・協力医療機関との連携を図りながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時対応についてマニュアルを作成し統一したケアを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施します。月1回のミーティング時、ホーム長より災害についての対策と格個人が常々危険を理解する努力を持つように指導している。また緊急時シミュレーションマニュアルを作成し、全職員にて共有している。	消防署の協力の元、9月、10月に避難訓練・通報訓練・消火訓練を日中に全職員で実施している。3月にスプリンクラーを設置し、4月に夜間想定した、利用者全員と全職員参加での避難訓練を計画している。非常災害時に備え地域の協力依頼の呼びかけ等、実施に向け具体化した話し合いを進めている。	事業所の災害対策時に関する理解を深め、地域住民への参加協力を依頼し、利用者と職員が一緒に避難訓練を行なう等実践的な取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人一人を尊重し、プライバシーの確保、人間としての尊厳を守るように努めている。又、当事業所では新聞を発行しており、作成に当たっては利用者の確認、了解を得てから発行している。	人生の先輩であるという気持ちを大切にし排泄・入浴誘導時にはプライバシーに配慮し、日常の言葉使いや声掛け等など、自己決定しやすい言葉掛けをするよう常に心掛けている。記録等は、事務室で行ない利用者・家族等には目に触れないよう工夫し、個人記録簿の管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の希望を引き出すような環境・言葉掛け等の支援を実施している。又、利用者の希望を職員間で共有するために、朝礼において利用者の希望を報告すること多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来る限りその人に合った支援や援助を実施し、楽しみある生活をと努力し、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・床屋さんは、来所し散髪を行って下さいます。女性の方とは特に髪形など、お洒落には気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備から楽しみを持って活動できるよう援助している。	利用者全員から事前に好みや希望を聞き、献立表を作成し、主に昼食時に取り入れている。食事の準備、後片付け等少しでも出来る事はしてもらい、利用者と職員と一緒に楽しみながら食卓を囲んでいる。又、利用者全員で和食ファミリーレストランやラーメンツアー等、外食等の機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入所者の食事量・水分摂取量を把握し、不足されている方には声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・歯磨きをするように声掛けし、見守りを行い、義歯の方にはポリデントうがいにて対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・自力で排泄できる人は職員見守りにて介助しております。少しでも自力で排泄できる様心がけ努めております。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない声掛け・言葉掛けに配慮し、清潔保持にも努めている。トイレでの排泄を大切にし、利用者の身体状況に合わせた安心パンツ・パット等を使用し、自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の方には医師からの薬(下剤・調整剤)等を処方。水分を多く摂取して頂いております。乳製品も1日1回摂取して頂くき対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴援助を行うに当たって、利用者と相談を行い、殆どの方が1日置きの入浴を希望され、実施しています。その他、気が進まない時・毎日入浴したい時などは、その希望に合わせた援助を行っている。また、入浴は着替えの用意から着脱・入浴・その後の水分補給においてマンツーマンの援助を実施しています。	利用者の希望や生活習慣に合わせて、柔軟な対応をしている。拒む利用者には話題を変えたり、声掛け等に配慮し仲の良い同士で入る等、安心感を持ってもらう工夫をしている。「もも太郎温泉」と呼び、好みの入浴剤を使用し、香りや色を楽しみながら、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日々の生活の中で、心の安定を図り、身心共に安らげる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診し、いつもと違う薬が処方された場合は職員が確認し見守りのうえ服薬して頂く。誤薬防止に名前と本人であるかを必ず確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その人が日々、何をしたいか、何をしたら楽しみが持てるのかを考えて援助に当たっている。身体を動かしたい方・ベットで臥床を希望される方など、その人らしさの生活を過ごせる事を第一に考え援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・冬場の外出を拒まれる方がいらっしゃいますが、天気の良い日にはドライブ・買い物、雪のない時期においては散歩に出かけられる様支援している。	利用者の身体状況に合わせ、近くの公園、スーパーでの買い物、全員参加のバスハイクでの紅葉狩り、ドライブがてら生まれ親しんだ家を見に行く等、可能な限り一人ひとりの希望外出を支援している。又、困難な利用者には車イスでの外気浴を促し、積極的に外へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自主管理が可能な人、又は、スタッフの管理が必要な方がいますが、外出先でのお金の出し入れは支援して行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話・手紙を希望される方には職員が付き添い、住所間違い、電話番号間違いが無いよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホール等、季節感ある花や壁紙などを飾り、置物にて温かさを支援している。	利用者同士、ゆっくりと思いいに過ごせるソファ・テーブル・イス・マッサージチェア等を置き、くつろげるよう配置され、居心地良い共用空間となっている。手作りの貼り絵、行事等の写真、絵、季節の花を飾り、調理時の匂いや音も感じ家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いいに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにてソファに座ってテレビ鑑賞されたり新聞を読まれたり、職員と話されたり思いいに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室のスペースに合わせて、本人の使い慣れたものを持ってきて頂く。	居室のレイアウトは利用者の希望に合わせて、これまで慣れ親しんだ日常品や好みの物を置き、温かい雰囲気作りに努めている。加湿器を置く等安心して過ごせるように湿温調整にも配慮し、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はバリアフリーになっており、廊下には手すりが付けられています。		